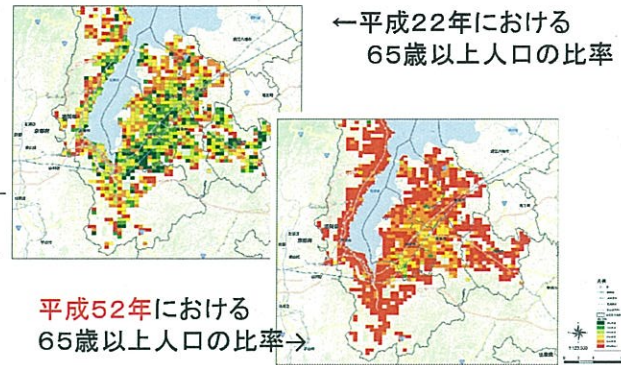


策定目的:大津湖南地域(都市計画区域)の持続可能な地域公共交通ネットワークの再構築(特に、びわこ文化公園都市への交通アクセス向上)を図る。

【地域の現状】

(人口)

今後も人口は増加。
 H27年 732千人
 H37年 742千人(ピーク)
 H52年 720千人
 一方で、高齢社会が進展
 H27年 22.6%
 H52年 31.8%



(人の動き)

- ・京都・大阪方面への移動が多く存在している。
- ・市内および隣接する市域間の移動も多い。



(道路ネットワーク)

- ・主要な渋滞箇所が広域幹線軸(国道1号、8号沿線)に集中。
- ・渋滞により、バスの定時性が確保されていない場合がある。

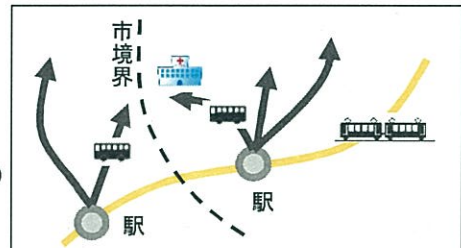


☆将来を見据えた道路ネットワークの整備と過度な自動車利用の抑制策が必要

(地域公共交通の運行サービス)



☆誰もが安心して利用できる公共交通ネットワークの整備とサービスレベルの向上策が必要



(持続可能な地域公共交通に向けて)

- ・バス利用者は年々減少傾向
- ・バス事業者は慢性的な乗務員不足

(び文公園都市の整備)

平成32年 新生美術館オープン
 平成34年 新県立体育館竣工
 平成36年 国体開催
 ☆まちづくりと一体となった交通体系の構築策が必要

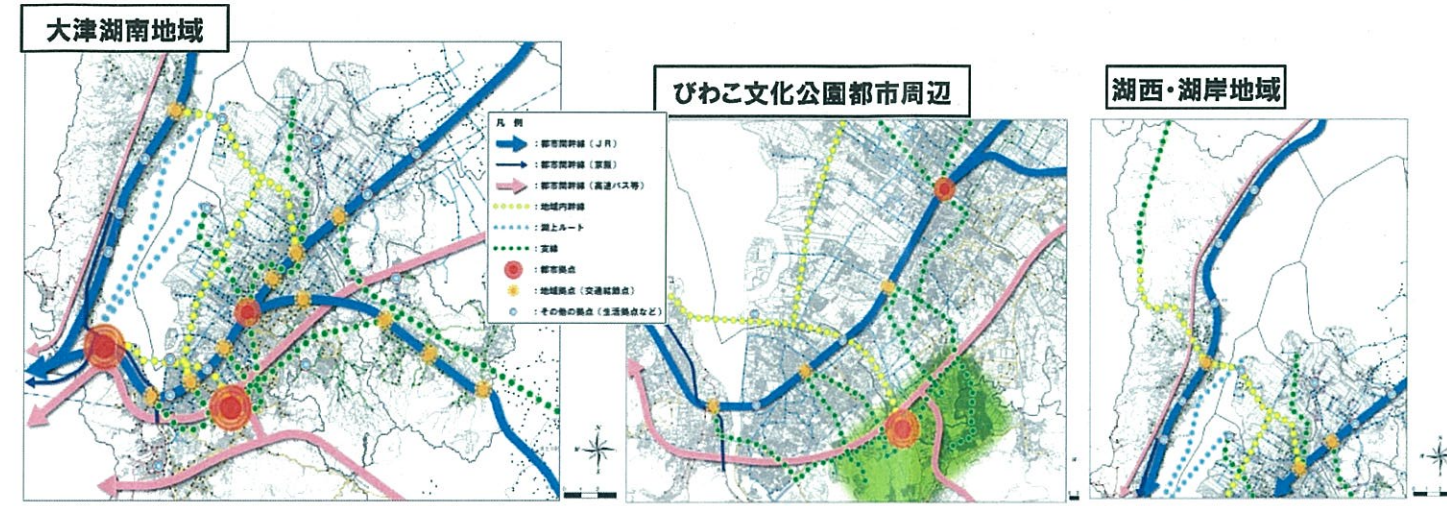


●大津湖南エリアでの地域公共交通網の形成に係る基本的な方針

目指すべき将来都市像 (コンパクト)	地域公共交通の将来像 (ネットワーク)
<ul style="list-style-type: none"> ・夢・輝き・やすらぎがあふれる住みやすさ 日本一! ・「出会い」と「わ」「結」を大切に、ひと・まちの元気さ 日本一! 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなに優しい利便性の高い地域公共交通ネットワーク ・大津湖南地域を「ひとつ」につなぐ充実した広域公共交通ネットワーク

●大津湖南エリアの将来交通ネットワーク素案

※滋賀県基本構想や人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略、滋賀交通ビジョンとともに、周辺6市の総合計画や総合戦略、都市交通マスタープランで示された将来像・方向性をもとに導出した。



●将来ネットワークを実現するための取り組み案(び文へのアクセス向上検討)

